

第1回品川区基本構想等策定委員会 議事概要

日時：平成19年6月8日 16:00～17:30

場所：品川区役所第三庁舎研修室

議事次第

1. 開会
2. 委員の委嘱
3. 区長挨拶

皆さまこんにちは。品川区長の濱野でございます。本日は、大変お忙しいところ品川区の基本構想等策定委員会にご参加を頂きましてありがとうございます。これから皆さま方のお知恵を拝借しながら基本構想を作って参ります。基本構想は、今後10年間の行政の基本的な骨格をなすもので、委員会で案を作成して、議会に提出し、議決を頂くという手続きになっております。

基本構想を含め、区などが作る計画のことを行政計画と呼んでおります。行政計画がなぜ必要なのかというのは、行政というのはその方向性が毎年毎年変わってはいけないわけで、ある一定の方向が継続し、発展していくようしっかりやっていかなければなりません。

また、計画を文章化して区民の皆さんに読んで頂くことにより、行政の考えややろうとしていることを公開し、チェックをして頂く役割もあると思います。

いずれにいたしましても、これから品川区がとるべき行政の姿勢・方向性そして何をやるべきかということの根幹を基本構想に盛り込んでいくこととなります。

是非、皆さま方の貴重なご意見をこの構想の中に込めていただいて、少しでも区民生活の向上に資して行くようにと思っております。いろいろとご無理をお願いをするようなことがあるかと思いますが。是非ご協力を頂きまして、策定の諮問にお答え頂ければ大変にありがたいと思っております。

4. 委員の紹介

* 委員長挨拶

青山委員長

- ・東京都庁での勤務経験から、品川区には東海道の宿場、また、かつて太田道灌が治めていたという歴史性、加えて海と山の手を有する風土等のイメージがある。
- ・品川区が活力をもち発展していくことは、東京の発展にもつながる。そのため、今後10年の品川区の方向性を規定する新基本構想は、とても重要なものであると考えている。これからの品川のために大いに議論していきたい。

5. 諮問

6. 委員長挨拶

7. 委員会運営について

8. 品川区基本構想について

委員長

- ・基本構想においては、その中身だけでなく、キャッチフレーズも重要な意味を有する。委員の皆さんには今のうちから少しずつキャッチフレーズについて考えておいて頂きたい。

9. 基本構想改定の課題について

10. 委員懇談

委員長

- ・委員の方々に、自己紹介を兼ねて、本委員会に参加するにあたっての意気込み等をお話頂きたい。

副委員長

- ・これまで介護保険の事業策定委員会や介護保険の推進委員会の委員長を引き受けてきた経緯で、本委員会に参加させて頂いている。
- ・新基本構想の策定にあたり、特に専門の福祉分野の議論において貢献したい。

各委員

- ・これまで品川区の外部評価委員会の委員として、区政の効率化に向けた取り組みに関わってきた。現在、教鞭をふるっている立正大学は大崎に立地しており、大学の地域貢献という観点からも、区政に貢献したいと考えている。また、品川は母親の故郷であるため、思い入れも深い。
- ・区内にある 206 の町会の代表として本委員会に参加している。新基本構想の策定にあたり、できる限りの役割を果たしていきたいと考えている。
- ・社会福祉協議会の会長として活動しており、「おたふくの顔になりたや我が心」という福祉の心を、区政に活かしていきたい。
- ・品川には、これまで長年住み続けてきた愛着があり、本委員会を通じて、住みやすい、また住み続けたいと思える地域づくりに向けた貢献をしていきたい。
- ・区内には 13 の地域センターがあり、各地域センターでは地区委員を中心に、子どもたちの育成に関する地区事業等を実施している。本委員会では、子どもの成長支援・育成という観点からも貢献したい。
- ・30 年以上前から清泉女子大学で勤務しており、その縁で、これまで男女共同参画社会に関する行動計画推進会議等、品川区の取り組みに関わってきた。女性の社会進出が進み、

以前と比べ、女性の社会的な立場は大きく変化している。本委員会では、男女共同参画の観点からそのようなことについても検討していきたい。

- ・現在、大学で産業や経営について学んでいる。本委員会を通じて、様々なことを学ぶとともに、一市民の視点から提案を行っていききたい。
 - ・区内で飲食店を営んでいる。常々、人々が誰しももつリソースである「笑顔」が重要であると考えている。
 - ・これまで品川区の行動計画推進会議や障害者基本計画の策定等に関わってきた。
 - ・2児の母として、子どもが寄り良い環境で成長していけるような地域をつくっていききたいと考えている。近年、「地域力」というキーワードが用いられているが、現場では上手くいっていないことも多い。本委員会では、様々な課題を越えて、「品川力」という点について考えていききたい。
 - ・かつて、子育てがしやすい地域と聞き、品川区に移り住んだ。今では子どもも大きくなり、子どもの成長を支えてくれた地域に恩返しをしたいと考えている。
 - ・品川に住み始めて40年になる。子育て支援活動を行っており、本委員会に現場の声を届けたいと考えている。「長く住んでもらうまち」、「誇れるまち」となるよう、本委員会を通じて様々なことについて考えていききたい。
 - ・商工会議所品川支部会長をしている。品川区内でものづくりの会社を営んでおり、創業80年余になる。区がより良くなるために、一生懸命やっていきたい。
 - ・品川に住み約70年になる。介護保険のしわ寄せが、介護保険を受けなければならない人に向かってきているように感じており、本委員会ではこの点についても検討したい。
 - ・「活力ある住み良いまち品川」を目指し、商店街連合会として活動を行っている。1つ1つの商店が活気を持つことが重要であり、区とともに、頑張っている商店を40選出し、地域にPRする活動も行っている。
 - ・青年会議所では、小学生向けにわんぱく相撲、中学生向けに寺子屋を開催している。区内で会社を営み、生活、子育てもしている。これから家族とずっと住む品川のために貢献したいと考えている。
 - ・本委員会では、地域メディアに関わる立場から貢献したい。20年前に策定された基本構想は網羅的な内容であったが、その後、再開発が進み、区として今後どのような都市づくりを行うのか、また、コミュニティの崩壊が指摘されるなか、今後、その再生にどのように取り組むのかという点が、課題として浮上してきている。
 - ・区内で働く者の立場や声を代表して、それらを本委員会に伝える役割を担いたいと考えている。
- 本間副区長
- ・自由闊達な議論の推進、また、区や事務局と本委員会との調整等の役割を担っていききたい。
 - ・より良い新基本構想のキャッチフレーズができあがるよう取り組んでいきたい。

山田副区長

- ・今年4月に副区長制度ができ就任した。
- ・新基本構想の策定においては、事務局をサポートする形で関わることになる。ソフト施策もハード施策も行政のミッションとして推進していきたい。

若月教育長

- ・10年、20年後を見据え、学校教育、子どもと学校の関係、家庭のあり方を考えると課題は多い。
- ・教育行政の改革を考える際、「ビジョナリーカンパニー」という書籍が参考になる。今後、ビジョナリーシティ・品川となるよう取り組んでいきたい。
- ・昨年10月に公開されたOECDの報告書の“School for tomorrow”という論文のなかに、“Demand sensitive Schooling”という項目がある。同報告書を読み、外部からの要望に敏感なだけで十分なのかということを考えさせられ、学校教育において新たな課題が見えてきたと感じている。
- ・様々な資料を参考に、エビデンス・ベースの議論を行っていきたい。

11. 今後のスケジュール

12. 閉会

以上